

理念「笑顔で暮らせる豊かな生活」について

社会福祉法人親光会
理事長 西 浦 緑

当法人設立の理由は、昭和58年に初代理事長が勤務していたビルに、近くの特別養護老人ホームの入所者が迷い込んでしまったところから始まります。

迷い込んできたおじいちゃんは、「お腹がすいた、何も食べていない。」と言ったそうです。また、近くで話していると、下の匂いが漂い、失便しているのが解ったそうです。

施設の方が迎えに来るまでの間にトイレとお風呂に入ってもらい、ご飯を食べてもらったそうです。お迎えが来た時、そのおじいちゃんの顔がなんとも悲しそうに見えたと話していました。その後も、何人かのおじいちゃんやおばあちゃんがそのビルに迷い込むことがあり、そのほとんどで「お腹がすいた」と話されたそうです。

初代理事長はこの経験から、自らが特別養護老人ホーム設立の意志を固めました。「ブラックタイガーでもいいから、2尾のエビフライを食べてもらえる老人ホームを作りたい。エビフライを食べたお年寄りには、きっと笑顔になる。」と行政に働きかけ、昭和63年4月に淡輪園が開園することとなりました。

淡輪園ができて、入所者と一緒に遠足や旅行に行くようになりましたが、平成6年に関西国際空港ができてからは、四国や九州にも足を伸ばすようになりました。旅行先のバスに乗った時、入所の皆さんが「淡輪園のバス」が判りやすいように寮母さん達が旗を作りました。その旗に刺繍されていたのが、淡輪園のマスコットのおじいちゃんおばあちゃん像と「笑顔で暮らせる豊かな生活」の文字でした。

これを作った寮母さん達に聴くと、「夜勤の時、理事長からエビフライの話をして聞かされてます。私達もここにいるお年寄りが笑顔で暮らして欲しいんです。」と答えてくれました。この旗は何度か旅行の度に登場し、その後は1階の廊下に飾られていました。

平成21年にある機関の第三者評価を受けることとなりました。それまで法人の理念や施設の理念を意識した仕事をしていませんでしたが、そこで理念の作成を求められた時、職員から「笑顔で暮らせる豊かな生活ではダメなのですか？ 笑顔で暮らせる豊かな生活でいいじゃないですか。」との意見があり、他の職員達もそれに同調しました。それ以後、

「それまでの人生がいかに充実したものであっても、老人ホームに入ってくるお年寄りの多くは、残念ながら笑顔忘れてしまっている。私達のお仕事は、こうした笑顔忘れてしまった人たちや笑えなくなった人たちに、一回でも多く笑ってもらえる機会を提案し、亡くなるまでのどこかのタイミングで”自分の人生は山あり谷ありだったけれど、最後がこれなら、まあこんなものだったかな”と思ってもらえたら、それは豊かな生活(人生)だったんじゃないかな。そんな風に感じてもらえる介護を提供したい。」

という目標となりました。

また法人としても、

「地域社会には、高齢だけでなく、病、心身の障害や家庭環境など、様々な理由にて生活困窮に陥っている人たちがいます。社会福祉法人親光会は、法人が持つ多様な力を結集させて、人々が笑顔で暮らせる地域の創造に寄与します。」を目標としました。

この2つの想いを込めて、社会福祉法人親光会は
「笑顔で暮らせる豊かな生活」を理念としています。